

違法派遣「まるで奴隷」

毎日 12 (H24) . 2. 5

今も事故の処理作業が続く東京電力福島第1原発。大勢の作業員の中には、遠く九州から違法な派遣で送り込まれ、放射線量の高い原発建屋内での作業を強いられた人もいる。

福島原発

20年ほどある鉛板を背負いヒル6階分の階段を一気に駆け上がる。首からぶら下がる線量計がけたたましく鳴り、白く曇る全面マスクが視界を遮る。気温30度以上。呼吸が乱れる。

「奴隷みたいな扱いが悔しかった」。長崎県の40代の中山洋介さん(仮名)は昨年7月から約40日間、福島第1原発で働いた。鉛板は1号機の建屋内に放射線を遮蔽するために取り付ける。中山さんがその言葉を絞り出したのは、過酷な労働の

せいではない。故郷に帰ってからのひどい仕打ちに対してだ。中山さんによると、仕事を紹介されたF社から受け取った給料は日当1万1000円。約束では1万4000円のはず。事前の説明では、建屋には入らな

逆らえば「ヤクザ」

いと聞いていた。食い下がる中山さんにF社は福岡県内の指定暴力団の名を挙げ、吐き捨てるように言った。「ヤクザが出てきても知らんばい」。F社が2社を通し労働者を送る2次下請けのC社は過去2回暴力団との親交を理由に指名除外の行政処分を受けていた。

F社は取材に労働者派遣事業の許可がない違法派遣であることを認めた上で、「二つ上のE社から支払われたのは1万3000円く

らいで、経費を引くと赤字になるけんです」と赤字に「ね」と語った。九州電力玄海原発の周辺業者に話を聞くと、福島に派遣される労働者は意外にも多い。

昨年12月、九州一円から労働者を集め九州や四国の原発工事を請け負う佐賀県内の設備工事会社を訪ねた。ホワイトボードの「福島第1」の字の横には約20人の労働者の名前が並び、役員の男性によると、これまで福島に人を送ることはなかつ



福島第1原発事故処理のため作られた九州の労働者たちの真新しい放射線管理手帳。一部画像を処理しています

建屋内で作業、約束違う給料



福島第1原発事故処理の多重下請け構造

だが、取引先から要請があるといい、「九州の人間は真面目だから人気がある。言われたらまた出すよ」と誇らしげに語った。

福島第一原発で中山さんと同じ作業に当た

った佐賀県の30代男性は、F社のさらに下流のG社から派遣された。ハローワークに求人票があったG社に連絡し、福島の仕事を紹介された。約10ミリの被ばくと引き換えに約

40日間の派遣で手にした金額は約30万円。

「これでも、地元には仕事がないですから、しようがないですね」

男性は2度目の福島行きに向け、待機している。